

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査 大阪市の結果について

速報版

大阪市教育委員会事務局

1.調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2.調査実施日

令和8年4月20日(月)～5月29日(金)

※中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」4月20日(月)～23日(木)

「話すこと」当日実施 : 4月24日(金)・27日(月)

期間内実施: 4月28日(火)～5月29日(金)

3.調査対象

①小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年の全児童

小学校 282校 17,346人 (※小学校に義務教育学校前期課程1校を含む)

②中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年の全生徒

中学校 131校 15,141人 (※中学校に義務教育学校後期課程1校を含む)

※後日実施や別室受検等の諸事情により全体集計の対象外として個人票のみを発行した児童生徒(以下、当該児童生徒という)は含みません。次ページ以降の集計値やグラフに当該児童生徒を集計した値は含めておりません。

4.調査事項

① 児童生徒:教科調査【国語、算数・数学、英語(中学校のみ)】/ 質問調査

② 学校 : 質問調査

5.調査問題

・学習指導要領で育成をめざす、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題

・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信

6.今年度の調査の特徴

・中学校英語4技能(聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと)の全面CBT化
(「話すこと」調査のみ令和5年度もCBTで実施)

・小学校児童質問でのランダム方式の導入

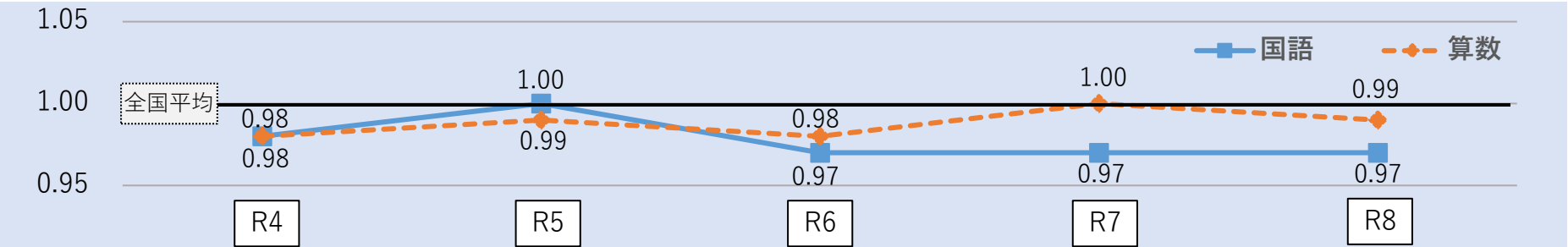


小学校・教科(国語・算数)の平均正答率・対全国比・学力層に着目した児童の割合

小学校 (国語・算数)

※全国(公立)の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。

	R4				R5				R6				R7				R8			
	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比
国語	64	64	65.6	0.98	67	66	67.2	1.00	66	66	67.7	0.97	65	65	66.8	0.97	59	59	60.9	0.97
算数	62	63	63.2	0.98	62	62	62.5	0.99	62	63	63.4	0.98	58	58	58.0	1.00	56	56	56.4	0.99



学力層に着目した児童の割合

※全国の児童全員の正答分布の状況から高い順に概ね25%になるように区切り、区分Ⅰ・区分Ⅱ・区分Ⅲ・区分Ⅳの4つに分け分析しました。なお、正答数が同じ場合は、上位の区分に含んでいます。

※大阪市と全国との差の値は、区分Ⅰ・区分Ⅱについては差が大きいほど、区分Ⅲ・区分Ⅳについては差が小さいほど、良好な結果を表しています。

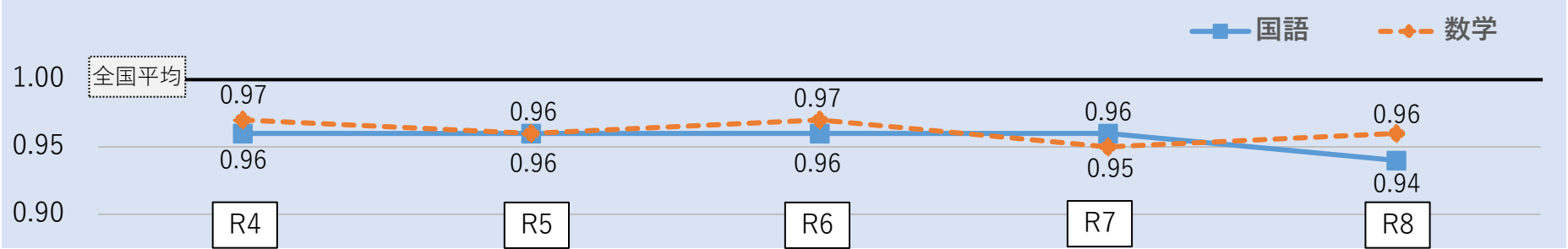
	国語														
	R4			R5			R6			R7			R8		
	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差
区分Ⅰ	24.5	28.4	-3.9	26.6	27.1	-0.5	25.9	29.9	-4.0	25.3	27.7	-2.4	31.1	34.2	-3.1
区分Ⅱ	24.7	24.5	0.2	27.3	28.1	-0.8	26.3	25.8	0.5	25.0	26.0	-1.0	23.0	23.6	-0.6
区分Ⅲ	27.6	26.2	1.4	21.0	20.8	0.2	20.6	19.7	0.9	29.7	28.5	1.2	20.6	19.8	0.8
区分Ⅳ	23.2	20.9	2.3	25.1	24.0	1.1	27.2	24.6	2.6	20.0	17.8	2.2	25.3	22.2	3.1
	算数														
区分Ⅰ	28.4	30.2	-1.8	29.6	30.0	-0.4	31.9	33.8	-1.9	26.0	25.3	0.7	31.2	31.1	0.1
区分Ⅱ	21.8	21.7	0.1	19.2	20.1	-0.9	17.9	18.5	-0.6	25.2	25.6	-0.4	24.4	25.0	-0.6
区分Ⅲ	24.0	24.3	-0.3	30.0	30.5	-0.5	28.4	27.7	0.7	28.5	29.1	-0.6	22.7	22.2	0.5
区分Ⅳ	25.8	23.7	2.1	21.2	19.5	1.7	21.8	20.0	1.8	20.3	20.1	0.2	21.7	21.6	0.1

中学校・教科(国語・数学)の平均正答率・対全国比・学力層に着目した生徒の割合

中学校 (国語・数学)

※全国(公立)の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。

	R4				R5				R6				R7				R8			
	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比
国語	66	67	69.0	0.96	67	68	69.8	0.96	56	57	58.1	0.96	52	52	54.3	0.96	60	61	63.9	0.94
数学	50	51	51.4	0.97	49	50	51.0	0.96	51	51	52.5	0.97	46	47	48.3	0.95	55	55	57.0	0.96



学力層に着目した生徒の割合

※全国の生徒全員の正答分布の状況から高い順に概ね25%になるように区切り、区分Ⅰ・区分Ⅱ・区分Ⅲ・区分Ⅳの4つに分け分析しました。なお、正答数が同じ場合は、上位の区分に含んでいます。

※大阪市と全国との差の値は、区分Ⅰ・区分Ⅱについては差が大きいほど、区分Ⅲ・区分Ⅳについては差が小さいほど、良好な結果を表しています。

	国語														
	R4			R5			R6			R7			R8		
	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差
区分Ⅰ	26.4	31.2	-4.8	30.1	33.4	-3.3	30.1	33.5	-3.4	22.8	25.8	-3.0	27.7	33.5	-5.8
区分Ⅱ	26.8	28.4	-1.6	23.0	24.2	-1.2	21.0	21.2	-0.2	26.9	27.5	-0.6	21.8	22.1	-0.3
区分Ⅲ	21.1	19.0	2.1	23.3	23.0	0.3	26.9	26.5	0.4	25.1	24.2	0.9	26.3	24.9	1.4
区分Ⅳ	25.6	21.4	4.2	23.6	19.4	4.2	22.0	18.9	3.1	25.1	22.5	2.6	24.1	19.5	4.6
	数学														
区分Ⅰ	28.6	30.5	-1.9	24.8	27.3	-2.5	25.9	27.3	-1.4	25.1	27.0	-1.9	27.2	29.1	-1.9
区分Ⅱ	26.3	27.5	-1.2	22.5	24.0	-1.5	27.1	29.3	-2.2	24.7	26.1	-1.4	20.5	21.0	-0.5
区分Ⅲ	23.4	23.0	0.4	32.5	31.1	1.4	23.5	23.1	0.4	23.4	23.3	0.1	30.0	30.3	-0.3
区分Ⅳ	21.8	19.0	2.8	20.2	17.6	2.6	23.5	20.3	3.2	26.9	23.8	3.1	22.4	19.4	3.0

中学校・教科(英語・3技能)の平均IRTスコア・IRTバンド分布

中学校 (英語CBT)

- 中学校英語はCBT (Computer Based Testing) にて実施しています。
 前回までの調査結果はPBT (Paper Based Testing) にて実施されており、平均正答率で結果が返却されています。
 ○IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。
 この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較することができます。

【平均IRTスコア(※1)】

平均IRTスコア	R8		
	大阪市	大阪府	全国
英語(3技能)	499	498	499

(※1)

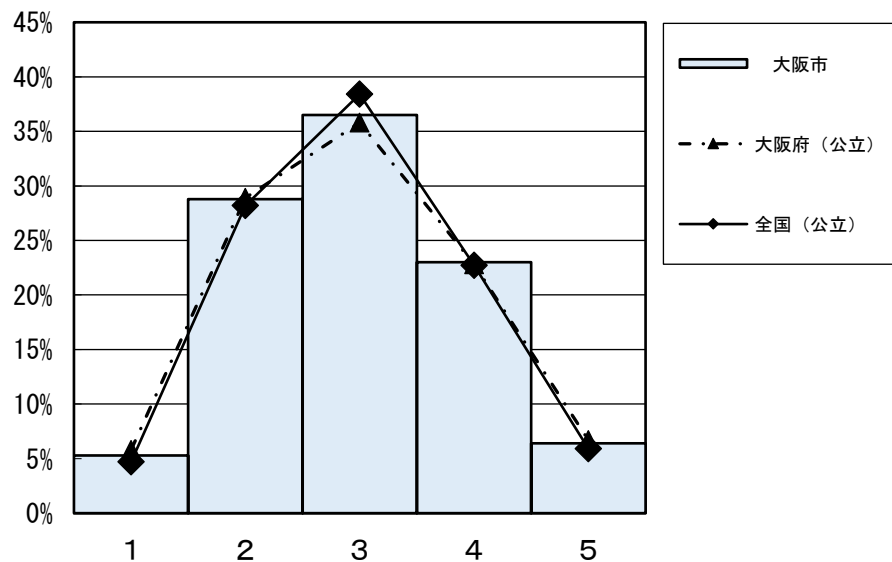
- ・IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。
- ・「聞くこと・読むこと・書くこと」の3技能を統合したスコアを示しています。
- ・「話すこと」を含めた4技能IRTスコアは、秋以降に返却される予定です。

《参考》

平均正答率	R1			R5		
	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比
英語	54	56.0	0.96	44	45.6	0.96

【IRTバンド分布グラフ(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)】(※2)

(※2) IRTバンド(1~5)はIRTスコアを5段階に区切ったものであり、3を基準としたバンドで、5が最も高いバンドとなっています。



【IRTバンド分布比較】

